



優
秀
賞

AIの必要性

水戸市立千波中学校 三年

松^{まつ}本^{もと}優^{ゆう}衣^い

この作文は、ゴールデンウィーク中の宿題として出された作文です。私は、作文を書くことが好きではありません。「主張作文」と言っても、特に主張したいことがあるわけでもなく、原稿用紙四枚分の文章を考えるだけで苦痛に感じてしまいます。だから私は、最近話題のチャットGPTというAIを使って、作文を書こうと思いました。これを使えば簡単に、楽に作文を書けるのではないかと考えたためです。試しに、「平和についての作文を千二百字程度で書いて」と質問すると、ものの数秒で、平和について千二百字程度で簡潔に作文を書いてくれました。「これで宿題が早く終わる!!」「もう完璧だ」とそのときは思っていました。しかし、いざ作文を書こうとすると、「本当にこれでいいのか」、「後で罪悪感をすごく感じるかも」と、

思い始めてきました。きっと、全国の小中学生の中にも、私みたいに考えている人がいるのではないのでしょうか。そもそも、AIは学校の勉強に用いるべきなのでしょうか。というより、私の学校生活のどのようなところに導入すると良いのか、私なりに三つ考えてみました。これを私の主張としていきたいと思います。一つ目は、生徒一人一人に合った勉強を提供するAIです。これは、塾などで活用されているAIです。このAIを利用することで生徒の「得意」や「苦手」「つまずき」「集中状態」などを分析することができます。私ももちろん苦手な教科などがありますが、はつきりとはわかりません。そんな時に、このAIがあれば、はつきりと自分の分析ができ、効率よく集中的に勉強することができるのではない

でしょうか。今年、受験生の私には、とてもほしいものです。

二つ目は、その日の服装や持ち物などを考えてくれるAIです。私の学校は制服がないので、普段、私服で登校します。そのため、今日の気温を毎日確認して服を選んだり、思った以上に暑かったり、寒かったりと、私服の学校ならではの悩みを私は抱えています。そんな時に、今日の気温や天気にあった服装を選んでくれたり、カイロや汗拭きタオルなどが必要であれば知らせてくれると、とても便利で、ありがたいです。そんなAIがあると、日々の学校生活を快適に過ごせると思います。

三つ目は、給食の残り具合の分析をしてくれるAIです。私の経験上、よく給食の量が多くて、配りきれないときがあります。捨てなければ、まだまだ食べられる、おいしい給食です。それが捨てられてしまうのは、とてももったいないです。そこで、その日の給食の献立、残り具合などをクラスごとに分析すれば、適切な量の給食を提供できると思います。そうすれば、給食の残りが減り、SDGsにも貢献できると思います。

まだまだ、AIを活用すると便利なことがたくさんあると思いますが、もし私が主張した三つのことが実現できたら、日々の生活を便利に、そして質も高めることができる

と思います。

では、チャットGPTではこのような発想ができるのでしょうか。実際に試してみると、先程のような三つの考えは出てきませんでした。つまり、AIにはこの作文を書くことはできないのです。これらをまとめると、AIが向いていること、人間が向いていることがあるのではないのでしょうか。AIばかりに頼っていると、あらゆるものの可能性が狭まってしまっていると私は思います。

だから、もっとAIの長所を生かせることは、活用しつつ、作文のような「発想」が必要な作業は人間がやるべきだと私は考えます。

